

算数解答

3点 × () 小計 / 21	1	(1)	17 <small>完全</small> あまり 13	2		
		(3)	84		4	
		(5)	202.1			6
		(7)	$4\frac{4}{9}$ $[\frac{40}{9}]$			

4点 × () 小計 / 10	9	(1)	2.6	11	
		(2)	ウ ₁₀		12
		(3)	29 個		
		(4)	$\frac{17}{5}$ <small>仮分数指定</small>		

(2)	61	8
(4)	0.74	
(6)	5.3	
(8)	$2\frac{6}{7}$ $[\frac{20}{7}]$	

3点 × () 小計 / 12	13	(1) ①	35 度	14
		(2) ①	4 cm	
4点 × () 小計 / 28	17	(1)	65 cm ²	19
		(2) ①	162 cm ²	
4点 × () 小計 / 28	20	(1) ①	① の面	23
		(2) ①	点 ケ	

3点 × () 小計 / 12	24	(1)	92 点	26	
		(2)	7 日目		27
		(3)	3 回		
		(4)	6 <small>完全</small> 日目で 19 点		
4点 × () 小計 / 8	28	(1)	9 人	29	
		(2)	31 人		

解説

1 (2) $19 + 7 \times 6 = 19 + 42 = 61$

(3) $96 \div 8 \times (15 - 8) = 96 \div 8 \times 7 = 12 \times 7 = 84$

(7) $1\frac{5}{9} + 2\frac{8}{9} = 3\frac{13}{9} = 4\frac{4}{9}$

(8) $3\frac{5}{7} - \frac{6}{7} = 2\frac{12}{7} - \frac{6}{7} = 2\frac{6}{7}$

2 (1) 0.01が10個で0.1, 0.01が100個で1です。260=200+60より, 0.01が200個で2, 0.01が60個で0.6だから, $2 + 0.6 = 2.6$

(2) 大きい位から順に数字の大きさをくらべていきます。一の位は5で同じです。

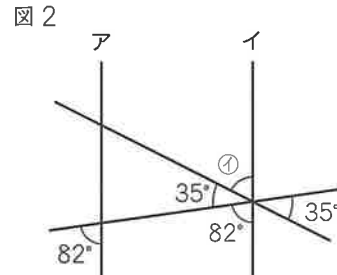
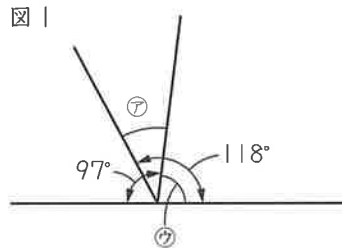
小数第一位も3で同じですが, イは小数第一位までの数だから, イが最も小さい数です。小数第二位は, アとウが2, エが0だから, 次に小さいのはエ, また, ウは小数第二位までの数だから, アとウではウの方が小さいです。よって, 大きい順にならべると, ア→ウ→エ→イとなり, 2番目に大きいのはウです。

(3) $4\frac{5}{6} = 4 + \frac{5}{6} = \frac{24}{6} + \frac{5}{6} = \frac{29}{6}$ より, $4\frac{5}{6}$ は $\frac{1}{6}$ を29個集めた数です。

(4) 数直線の1目もりは1を5等分しているから $\frac{1}{5}$ を表します。アは, 3を表す目もりから右に2目もりだから, $3\frac{2}{5}$ を表します。これを仮分数で表すと, $5 \times 3 + 2 = 17$ より, $\frac{17}{5}$ です。

3 (1) ① 下の図1で, $\text{ア} = 180 - 97 = 83$ (度)だから, $\text{イ} = 118 - 83 = 35$ (度)

② 平行な2本の直線はほかの直線と等しい角度で交わります。また, 向かい合った角の大きさは等しいから, 等しい角をかきこむと, 下の図2のようになります。① = $180 - 35 - 82 = 63$ (度)



(2) ① 平行四辺形の向かい合う2組の辺の長さは等しいから,

$\text{オ} = \text{キ} = \text{オエ} = 12 - 8 = 4$ (cm)

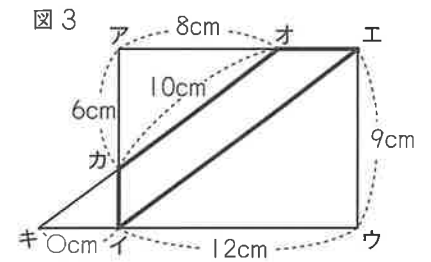
② 右の図3で, オキとエイの長さの和

は, $38 - 4 - 4 = 30$ (cm)だから,

$\text{オキ} = \text{エイ} = 30 \div 2 = 15$ (cm),

カイの長さは, $9 - 6 = 3$ (cm)です。

よって, 四角形オカイエのまわりの長さは, $10 + 3 + 15 + 4 = 32$ (cm)

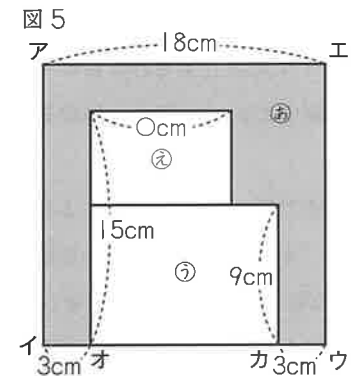
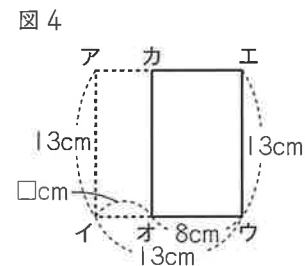


4 (1) 四角形アイウエは正方形だから, アイ=イウ=エウ=13cmです。

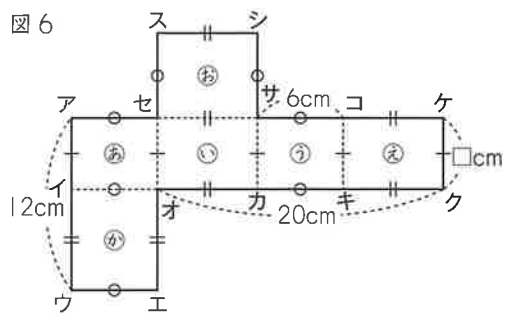
下の図4で, $\square = 13 - 8 = 5$ (cm)より, 切り取った長方形アイオカの面積は, $13 \times 5 = 65$ (cm^2)

(2) ① 正方形アイウエの面積が, $18 \times 18 = 324$ (cm^2)だから, ④の部分の面積は, $324 \div 2 = 162$ (cm^2)

② 下の図5のように, ①の部分①を⑦と⑧の2つの長方形に分けて考えると, ⑦の長方形の横(オカ)の長さは, $18 - 3 - 3 = 12$ (cm)だから, ⑦の長方形の面積は, $9 \times 12 = 108$ (cm^2)です。①の部分の面積は, ④の部分の面積と等しく162 cm^2 だから, ⑧の長方形の面積は, $162 - 108 = 54$ (cm^2)です。⑧の長方形の面積について, $(15 - 9) \times \text{オ} = 54$ より, $\text{オ} = 54 \div 6 = 9$ (cm)



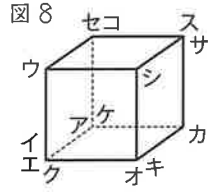
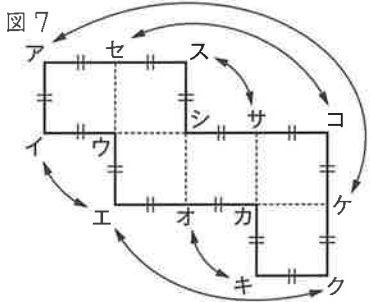
- 5 (1)① 直方体の展開図では、組み立てたとき、同じ大きさで同じ形の長方形の面が平行になります。㊶と㊷、㊸と㊹、㊺と㊻の面がそれぞれ平行になります。



- ② 同じ長さの辺に同じ印をつけると、右の図6のようになります。□cmはアイの長さと同じです。
 アイ=アウ-イウで、イウ=オエ=オカ=キクです。オカとキクの長さの和は、 $20-6=14$ (cm)だから、オカの長さは、 $14\div 2=7$ (cm)です。よって、 $\square=アイ=アウ-イウ=アウ-オカ=12-7=5$ (cm)

- (2)① 展開図を組み立てると、下の図7のように点が重なり、下の図8のような立方体ができます。点アに重なるのは点ケです。

- ② 立方体はすべて正方形の面でできているから、図7の展開図のまわりの長さは立方体の1辺の14個分の長さにあたります。よって、立方体の1辺の長さは、 $98\div 14=7$ (cm)、図8より、立方体に辺は12あるから、立方体のすべての辺の長さの和は、 $7\times 12=84$ (cm)



- 6 (1) たてのじくは、 $60-50=10$ (点)を5目もりで表しているから、1目もりは、 $10\div 5=2$ (点)を表します。4日目の算数の得点は90点と1目もり(2点)で92点。
 (2) グラフの線のかたむきが最も急なところが、変わり方が最も大きかったところです。右上がり最も急なのは4日目で12目もり半、右下がり最も急なのは7日目で15目もり半だから、変わり方が最も大きかったのは7日目です。
 (3) 国語の得点を表すグラフの点が算数の得点を表すグラフの点より上にある日で、2日目、3日目、7日目の3回です。
 (4) 同じ日で、算数の得点を表すグラフの点と国語の得点を表すグラフの点が最もはなれている日を見つけます。あてはまるのは6日目で9目もり半はなれています。1目もりは2点を表すから、半目もりは、 $2\div 2=1$ (点)を表します。よって、差は、 $2\times 9+1=19$ (点)です。
 *6日目の算数の得点は85点、国語の得点は66点だから、 $85-66=19$ (点)と求めてもよいです。

- 7 表にわかっている人数を書きこむと、下のようになります。

朝ごはん調べ (人)

		たまご		合計
		食べた	食べなかった	
お米	食べた	ア	イ	21
	食べなかった	7	ウ	エ
合計		19	オ	カ

- (1) お米は食べたが、たまごは食べなかった人の人数を表すのは、上の表のイのらんです。ア=19-7=12(人)だから、イ=21-12=9(人)
 (2) クラスの出席者数を表すのは表の力のらんです。
 お米もたまごも食べた人の人数(表のアで12人)が、お米もたまごも食べなかった人の人数(表のウ)の4倍だから、ウ=12÷4=3(人)です。
 よって、エ=7+3=10(人)より、カ=21+10=31(人)
 *オ=9+3=12(人)より、カ=19+12=31(人)と求めてもよいです。

解説

1 漢字の読み書き

2 反対の意味をもつ漢字／同じ読み方をする漢字

- (1) 反対の意味の漢字を組み合わせたことばで覚えられるものがあります。③は「勝敗」、④は「和洋」ということば(熟語)があります。
- (2) ①・②「意外」は思いがけないことを表す場合、「以外」はそのほかのものを表す場合に使います。

③・④「指名」は名をあげて特定の人を指す場合、「使命」はあたえられた重大な任務を表す場合に使います。

3 呼応することば／「て」をは／文末表現

- (1) 呼応することばについての問題です。①は「まるで〜ような」、②は「よもや〜まい」、③は「なぜ〜か」と、決まったことばどうしが結びつくので、組み合わせを覚えておきましょう。アは「たとえ〜でも」、エは「ぜひ〜ください」、オは「もし〜なら」、キは「きつ〜だろう」というように結びつきます。

(3) ことばをていねいな形にする文末表現として「です・ます・ございます」があります。ていねいな形のことばで過去を表すときには、「でした・ました・ございました」となります。④のように否定の過去形にするときは、「行きませんでした」となります。「行かなかったです」としないように注意しましょう。

4 物語(堀米薫「金色のキャベツ」より)

- (1) 風香たちが仁ちゃんの畑に着いた部分に、「エンバクをまいていた畑に着くと」とあります。仁ちゃんはエンバクをまいていたことがわかるので、それを表すことばをさがします。
- (2) 風香は、さとさんとりゅうやさんがお茶を飲みほすとすぐにいびきを立ててねはじめたことがおかしかったのです。
- (3) ぼう線③の直前に「なんだろう、たいへんなことがおきたんじゃないよね」とあり、風香が不安になっていることがわかります。とにかく仁ちゃんに無事でいてほしいという気持ちで胸の前で手をギュッとにぎりしめたのです。
- (7) 穂波さんの「危険とはとなりあわせだから、けっして気はぬけないのよ」という言葉は、農業という仕事のきびしさを表しています。その意味が風香の心に強く伝わってきているので、「ひしひしと」が入ります。
- (8) 拓也のすがたを見た風香は「仁ちゃん、よかったね。拓也も、穂波さんも、重さんも、みんな、仁ちゃんの家族なんだね」と思っていて、そこに家族のきずなを感じています。
- (9) ぬけ落ちた文の内容から、風香が走っていることや、風香以外の人も走っていることがわかります。直前に走っているという内容が書かれている(エ)が正解です。
- (10) 本文の終わりの方で「やっぱり、重さんにはかなわないな。おれは、まだまだ修行がたりないよ!」と仁ちゃんが言っていることから、イが正解です。アは「今回の仁ちゃんのトラブルもそのせいではないかと思っ落ちこんでいる」、ウは「自分が余計な口をはさもうとしていたことを反省した」、エは「気のゆるみを引きしめるために、わざと気持ちをおしこらして」が、それぞれ本文中からは読み取れません。